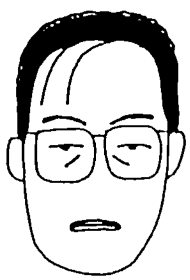
ビブリア

発行　いわき市平上荒川字長尾30
　　　福島工業高等専門学校
編集　図書委員会　ビブリア編集部
　　　平成元年7月13日

福島高専図書館報第66号

巻頭言



小林仲吉

私は、学校でも家庭でも本に囲まれて生活している、かなり重度の活字中毒患者であるが、いわゆる読書というものには疑問を持っている。学校の先生は「本を読みなさい」とおっしゃるが、その目的、意味、方法について教えてくれる人は少ない。夏休みが近づくと、読書感想文を書くための課題図書なるものが書店に山積みされるが、そのタイトルが30年前とほとんど変わらないのはどういうわけだろうか。先生はなぜ漱石を読ませたがるのだろうか。高校生はどうして太宰を読まなければならないのか。そのことが、昔も今も、私には合点がいかない。趣味的なものをなぜ一律に強制しなければならないのだろうか。社会一般の基準からすれば、少々異常とも思われる人物の話を、感受性豊かな子供に与えることにどんな意味や目的があるのか誰も教えてくれない。

我々が本を読む目的には、ある種の知識を得るためと、コーヒーやワインのように一種の嗜好品として楽しむための二つがある。いわゆる読書は後者の意味であって、個人的趣味の問題ではなかろうか。趣味娯楽の話を人生最大の普遍的課題であるかのように宣伝する教養俗物的傾向を私は好まない。学校が学生に勧める読書は、知識獲得型が主であり、趣味型は副であろう。

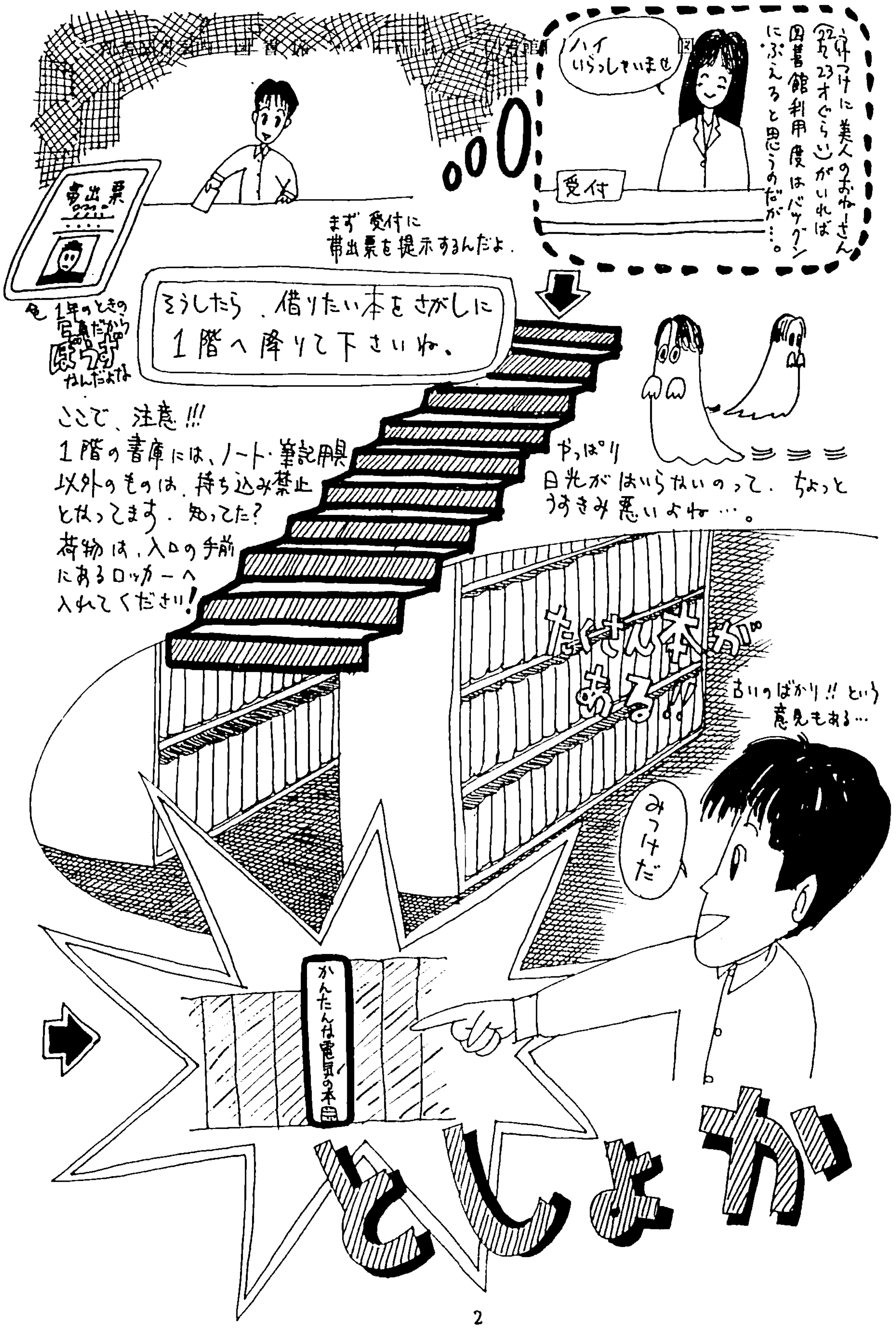
従って、学校図書館は、学生を引きつけるために趣味娯楽的魅力を多少持たせることはよいが、その本来の主旨からして、学習・研究支援のための機関でなければならない。そして今、知識を得るための手段はますます多様化しつつある。紙に印刷され活字と、コンピューターのディスプレーに現れる文字との間にどの様な違いがあるのだろうか。ラジオからの音やビデオの画像が、情報という点で本の活字に劣ると考える理由はない。私の回りにある数千冊の本の大部分は本の形を取る必然性はないと私は考えている。それらは時々、部分的に参照する程度のものに過ぎない。辞書、辞典の類は、必要箇所をすばやくキーボードでディスプレー上に呼び出せれば、それにこしたことはない。言葉、音楽の情報は音を伴ったほうがよいし、美術の本はレーザーディスクに劣る。それでも本のほうがよいというのは、趣味の問題であって実用のレベルの話ではない。20巻の百科辞典は家具の一部としての価値もあるが、CDの百科辞典はその点では無価値。ただしそれ本来の機能面から判断すれば、紙の辞典よりはるかに優れていると言わざるを得ない。

目的さえ具体的に設定すれば、その手段がいくら多様であっても、全体としてまとまりのあるシステムができるものである。これまでの図書館が本の倉庫であったのは、情報伝達の手段が他になかったからに過ぎない。本以外の情報源をどのように管理するかがこれからの図書館の課題である。

そして、趣味の本はますます個性化して行くと思われるが、学校図書館がどこまでそれに対応できるか楽しみでもある。

目次

巻頭言　小林仲吉　・・・1
イラスト図書館案内　寛　真一郎　・・2
インタビュー　原田正光VS八代文子・・4
階段教室のAV機器　奥村陽彦　・・・6
新着図書案内　図書係　・・・7
図書館利用者統計　図書係　・・・10



帯出票
1年のときの写真だから ぼうず なんだよな
まず受付に帯出票を提示するんだよ.
ハイ いらっしゃいませ
受付
受付に美人のおねーさん(22才〜23才ぐらい)がいれば図書館利用度はバツグンにふえると思うのだが…。
そうしたら、借りたい本をさがしに1階へ降りて下さいね、
ここで、注意!!!
1階の書庫には、ノート・筆記用具以外のものは、持ち込み禁止となってます. 知ってた?
荷物は、入口の手前にあるロッカーへ入れてください!
やっぱり日光がはいらないのって、ちょっとうすきみ悪いよね…。
たくさん本がある!!
古いのばかり!! という意見もある…
みつけた
かんたんな電気の本
としょか

借りたい本がみつかったら
「やったーみつけたぜ!」という気持ちを
このくらい体で表現しよう!
そーすれば君はまさに…
ぐっどぐっど!!ですよ
…それはさておき
代本板
代本板ラベル
みどりいろ
代本板ラベル(書庫においてある)と、ブックカードに自分の名前を記入して下さい。
ブックカード
図書館には観葉植物があります。
『緑』は心がなごむよね。
うん。
よく高専の庭にいる毛虫(イモ虫?)
これもみどりいろだー。
めすし♡〜
おす
代本板を、借りる本の場所にちゃんと置いたらもういちど受付へ!!
おねがいします。
ブックカード
◎帯出票
◎ブックカード
◎借りる本
これでOK!!
なーんもむずかしいことなどないんだ!
みんな!!図書館をもっともっと使おう!!
帯出票を失くした人は、学生証でも代用できます。
でも、借りてるあいだは図書館の方で預ってるわけだから
映画とかボーリング行くときは学割きかなくなるんじゃない?
気をつけてね。
んの使い方

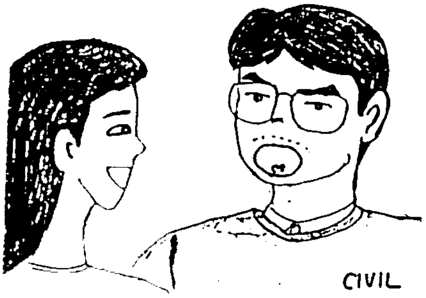
インタビュー

５年土木工学科の図書委員、八代文子さんが、同じく土木工学科の原田先生をお訪ねし、「読書」についていろいろお話をうかがいました。先生は、地元、磐城高校から東北大学工学部土木工学科に進まれ、博士課程を終了、昨年１２月に同大学より博士号を授与されました。先生のご専門は「上水道工学」。学生諸君は、世代的に近い原田先生の読書体験から、多くのことを学ぶことができるのではないだろうか。

八代　きょうは原田先生に、まず学生時代の読書についてお話をうかがいたいと思います。先生は、本を読むのがお好きでしたか。

原田　うん、かなりね。

八代　先生の学生の頃と今の学生との読書量の差というものがあるとお感じですか。



原田　ウーン、あると思うよ。今、本を読んでいるかどうかというのではなくて、小さいときからの読書の積み重ねの差は出てきていると思うね。

八代　それは量的な差ですか。

原田　そういうわけではなく、たとえば会話をしていても．．．．

八代　言葉がわからないとか．．．

原田　そう、言葉だけではなく、常識だと思われるようなことを言っても、ポンとはね返ってこないことがよくあるね。僕たちはそういうことをだいたい本から取ってくることが多かったよ。そういう吸収力が今の学生には少ないような気がするね。

八代　それはやはりテレビなどの影響でしょうか。本を読むよりテレビの方が手軽だから。

原田　やはり、生まれたときからテレビが映っていたし、字を読むより楽だからね。

八代　学生時代に、先生は専門書と一般書のどちらを多く読まれましたか。

原田　やはり専門書の方が多くなっちゃったね。

八代　専門書はご自分で購入なさったのですか。

原田　そう、自分でも買ったし、図書館もだいぶ利用したよ。図書館というのはけっこう、気が休まるのね。静かに本も読めるし、勉強もできる。眠くなったら眠れるでしょう。

八代　高専の図書館とはだいぶ違いますね。

原田　いや、高専の図書館もその気になって利用すれば、それなりの良さっていうのが出てくるんじゃないの。

＊　本校図書館

八代　高専の図書館の利用状況やシステム、蔵書の種類などについてはどうお考えですか。

原田　時々、一階の書庫に本を探しに行くけど、本の数のわりに利用者は少ないね。閲覧室で勉強している人もあまりいない。

八代　その原因は何でしょう。

原田　何よりも、その気があるかどうかでしょう。勉強のためでも、教養を深めるためでも、本を読む気持ちがなければ、どんな立派な本をいくら増やしてもしょうがないでしょう。本を読むことより面白いことがまわりに多すぎるから、またそっちの方が簡単にできるから、みんなそっちへ流れて行くのかな。

八代　高専の図書館には専門書がたくさんありますが、古くなって、今では使えないようなものも多いと思います。こういう本は、どんどん新しいのに取り替えるべきだと思うのですが。

原田　確かに使いようのない本もあるけど、専門書の中にも古典と言われるものがあるので、これらは残しておかなければならないよね。僕の専門の、水質の関係でも、高専の図書館にこんな本があるのかと感心したこともあるよ。日本の本も、外国のものも。でもやっぱり選別すべきだよね。先生方がそれぞれの立場で、これは残すべきだ、これは処分してもよい、というようにね。

＊　学生時代の読書

八代　話は変わりますが、先生は学生時代にはどんな種類の本を読んでいらしたんですか。

原田　高校時代は小説。歴史ものとか純文学的な、あまり難しくないもの。

八代　その中で、特に印象に残ったようなもの

がありますか。今でも憶えているとか。

原田　僕は、大学受験の頃、明治、大正の頃の小説を読んだけど、意味はよく解らなかった。漱石とか鴎外とか、解らないけどなんとなく活字を追って行くのが楽しかった。男女の関係なども、こんなもんかなぁと思いながら読んで、終わってから考えてみたら、やっぱり解らなかったということもあった。だから、具体的に本の名前を挙げろと言われても困るけど、若い人には、今はやりの本よりも昔のものを読んでもらいたいという感じがするね。

八代　学生の頃、こんな本を読みなさいとか、助言して下さる方がいらっしゃいましたか。

原田　中学の国語の先生などが、ご自分の読まれた本の話をしてくださると、その中身がダイジェストとして解るので、その本を読んで見たくなったりしたよ。映画を見に行くのに、一回本を読んでから行く人がいるでしょう。最近のカドカワ映画みたいに。それと同じで、先生から聞いたストーリーを、実際の本で確かめてゆく楽しみもあるね。こういう先生も中学から高校１年まで。２年からは受験、受験してね。

八代　では、大学時代はいかがでしたか。

原田　大学では一般書からは遠ざかっちゃった気がするね。１，２年の頃までは純文学なんか読んでいたけど、３年からはどうしても専門書が多くなったね。

八代　私のまわりにも５年間１度も図書館の本を借りたことのない人がいますが、その原因は何でしょうか。

原田　やっぱり、友達とか、先輩、先生からのアドバイスが少ないということがあるよね。後輩に「お前、遊んでばかりいないで、この本を読めよ。」と言う先輩がいるかな。クラブの先輩に言われれば後輩は読むと思うよ。先輩の命令は絶対だから。こういうことは命令するもんでもないけど。でも、後輩って先輩の影響を受けるよね。クラブでも、読書でも、勉強でもそうだけど、先輩が後輩を指導するという雰囲気ができればいいと思うね。

　卒研などでも、３、４年生が入ってくるといいと思うな。下級生は上級生からいろいろ教えてもらえるし、５年生も下級生から質問されるから、うかうかできないでしょう。隠れて、図書館で勉強するんじゃないの。そうすれば縦のつながりもできるし、活性化すると思うんだ。５年間で１冊も借りないなんてのは、どうもね．．．

＊　現在の読書傾向

八代　先生は、今どのような傾向の本を読んでいらっしゃいますか。

原田　そうねー、自分の研究という狭い意味の専門書ではないけど、どうしても専門書が多くなっちゃうね。今は自分の研究をもっと広げようと思っているから、水に関係するものを最近は手当り次第に読んでるね。

八代　では、一般書はほとんど読まれない。

原田　いや、一般書を含めて、水に関係した本を読んでるの。そういう本てけっこうあるよ。専門の本でなくても、自分がやりたいことのきっかけ掴むことができるんだ。映像は、ただ流れるだけだけど、本は後戻りもできるし、いろいろいいことがあるよ。

八代　でも、本は映像に押されたり、コンピューターに代わられたりして、なくなるようなことはないでしょうか。キーボードを押すと、必要な情報が画面に出て来る時代ですから。

原田　どうだろうね。でも、味気ない気がするね。僕はページをペラッとめくるほうがいいな。本棚に並んでいる背表紙を見て、この本はあんな心理状態のときに読んだっけなとか、こっちの本を読んだときはずいぶん落ち込んでいたな、などと思い出すのはいいと思うな。

＊　学生へのアドバイス

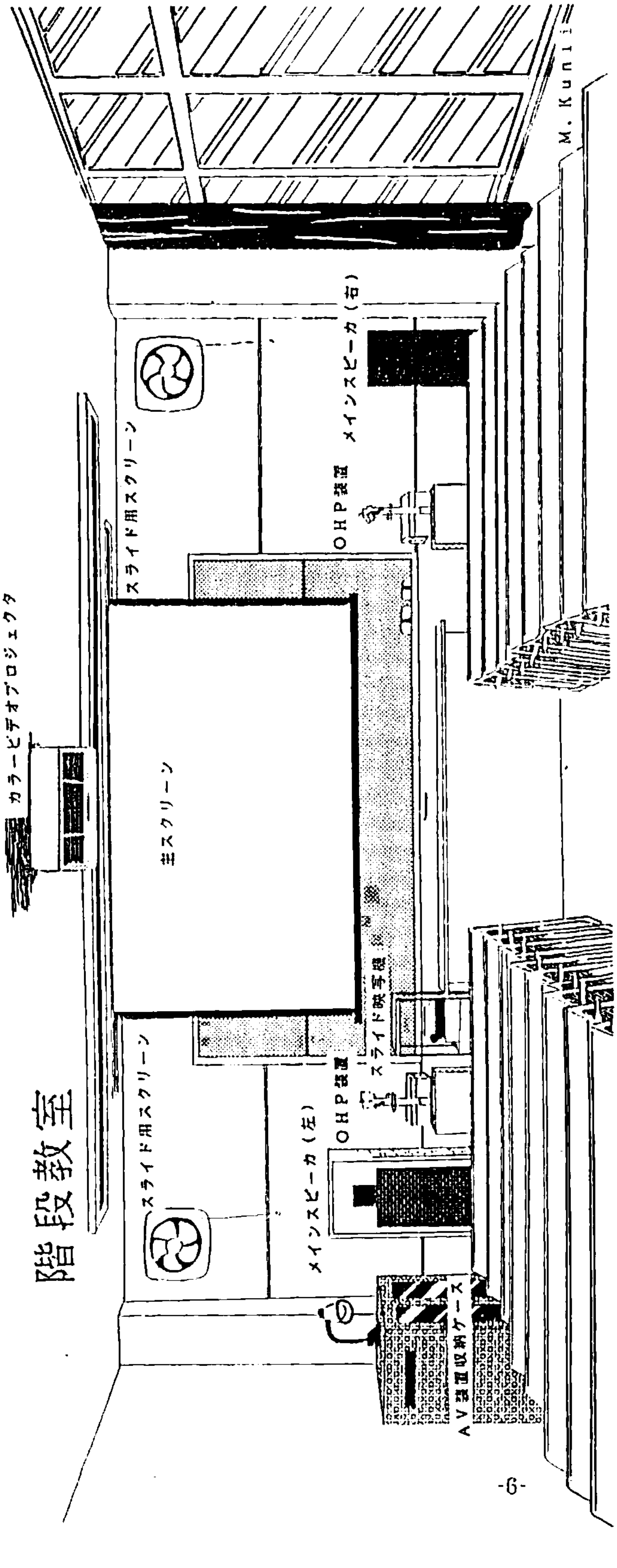
八代　最後に、読書について学生へアドバイスを頂きたいと思います。

原田　「これ、いいよ」と言われた本は一通り目を通すこと。先生や先輩から勧められた本が、たとえつまらなくても、自分なりに本に対して批評ができるようになるでしょう。それがもしよい本だったら、得した気持ちになるし。まあ、損得の問題じゃないだろうけど。

八代　社会人になると、人間関係などで読書量というものは大切なのでしょうか。

原田　人付き合いだけではないでしょう。結婚して、子供がうまれ、その子供が小学生、中学生になったとき。「お父さんが（お母さんが）子供の頃はこういう本を読んだんだよ」って話ができるでしょう。今はみんな好き勝手なことをしてるけど、親になって、「子供に何をしてやれるかな」って考える大人になって欲しいよね。麻雀が面白いからって、それだけで終わっちゃうでしょう。

八代　きょうは、楽しくて、またたいへん示唆に富んだお話をして頂きまして、ありがとうございました。



施設紹介

国井みどりさん（４年電気工学科）のイラストで階段教室のＡＶ装置をご紹介しましょう。

１．　カラービデオプロジェクターによって、ビデオテープやレーザーディスクなどの映像を大型の主スクリーンに投影することができます。

２．　最新の高解像度、高画質を持つ、ＶＨＳおよびβ両方式のビデオデッキを備えています。

３．　レーザーディスク、ＣＤやオーディオカセットの再生ができます。

４．　正面１対のメインスピーカーと後方スピーカーとあわせて４個のスピーカーがあり、これをドライブする音響装置があります。

５．　主スクリーンの左右両側に、ＯＨＰ用スクリーンがあり、２台のＯＨＰ装置や電動式スライド映写機を備え、交互に利用できます。

６．　有線マイクのほかに、ワイヤレスマイクによって、室内のどこからでもスピーカーが使えます。

７．　リモートコントロールによって、スクリーンの昇降、暗幕の開閉、照明の点滅、装置類の軌道、停止などが自由にできます。

以上のように、多くの機能を持った階段教室ですが、授業、各種学内行事をはじめ学会、講演会などにも広く利用されています。共通の施設として大切に扱われることを願い、視聴覚教室とともに大いに活用されることを期待しています。

（電気工学科　奥村陽彦）

新着図書案内

（平成元年３月末日現在）

総記

日本写真年鑑　1989	日本写真新聞社
東洋文庫　497　中国神話	平凡社
498　和漢三才図会	

哲学

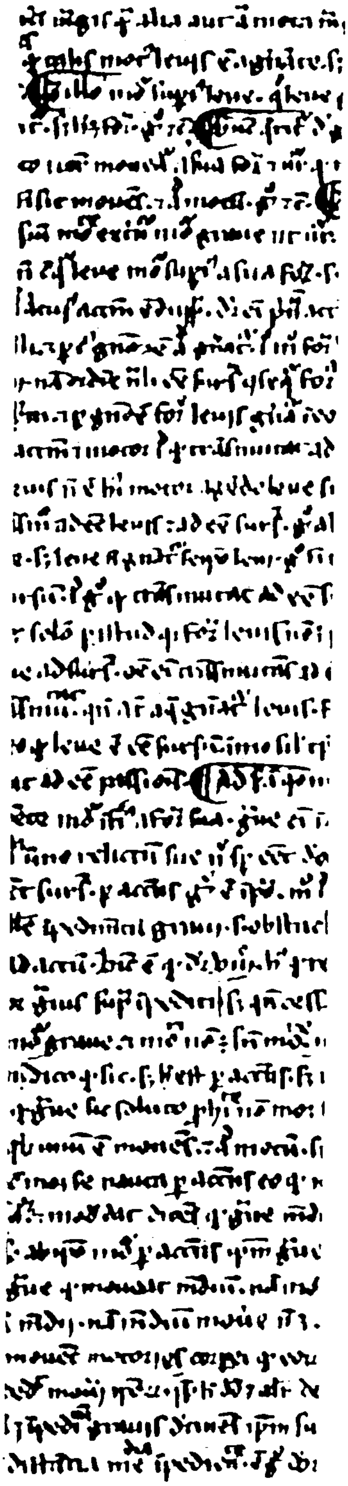
岩波講座東洋思想　15　日本思想	岩波書店
日本近代思想大系　14　科学と技術	〃
日本の思想　　相良享著	ぺりかん社
生きることの探求　　谷口隆之助ほか編著	川島書店
人間世界の心理学　　早坂泰次郎編著	〃
感情と人間関係の心理　　斎藤勇編著	〃
精神的に健康な人間　　上田吉一著	〃
人間関係　　大段智亮著	〃
誠実と日本人　　相良享著	ぺりかん社
武士の思想　　相良享著	〃
わが息子よ、君はどう生きるか　　Chesterfield著	三笠書房
大嘗祭の構造　　平野孝国著	ぺりかん社

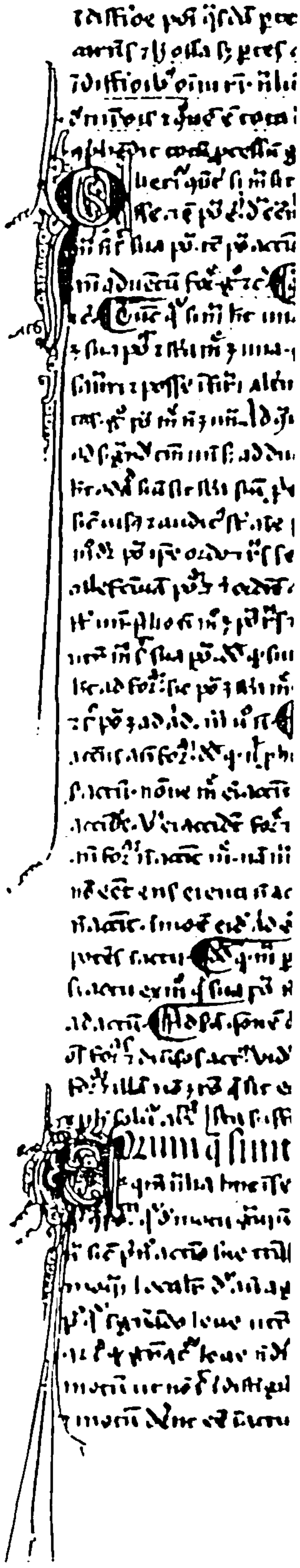
歴史

大系日本の歴史　12　開国と維新	小学館
13　近代日本の出発	
昭和二万日の全記録　7　廃墟からの出発	講談社
ワイマル共和国史　　救仁郷繁著	ぺりかん社
トランプ自伝　　Trump著	早川書房
日本歴史地名大系　38　香川県の地名	平凡社

社会科学

検証五つの破局論　　牧野昇著	東洋経済新報社
現代政治学叢書　10　公共政策	東京大学出版会
20　対外政策	
講座　憲法学の基礎　1　5	勁草書房
民法　　吾妻栄著	〃
経済学の歴史　　ｶﾞﾙﾌﾞﾚｲｽﾞ著	ダイヤモンド社
わかりたいあなたのための経済学入門	JICC出版局
思春期の性と教育　　黒川義和著	全日本社会教育連合会
日本教育年鑑	ぎょうせい
青年期の自己形成　　伊藤順康著	川島書店
女子学生のための青年心理学　　藤野武ほか編著	〃
青年心理学　　岡路市郎ほか編著	〃
青年心理学入門　　徳田安俊著	〃
日本民俗文化大系　1　サンカとマタギ	三一書房





自然科学

書名	著者	出版社
未来を拓く	現代化学編集グループ編	東京化学同人
自然と遊戯	アイゲンほか著	〃
科学者のための英語教室	Scott Howellほか著	〃
数学的経験	デービスほか著	森北出版
テクストブックコンピュータ基礎数学	情報数学研究会編	日本理工出版会
天才秀才数学問題集	三橋重男著	東京図書
理系のための数学	竹之内脩ほか著	培風館
解法のテクニック代数幾何	矢野健太郎著	科学新興社
解法のテクニック数学　1	矢野健太郎著	〃
理系のための代数幾何	竹之内脩著	培風館
パーソナルコンピュータによる数学	両角豊志著	丸善
行列とベクトルのはなし	大村平著	日科技連出版社
理系のための基礎解析	竹之内脩ほか著	培風館
解法のテクニック基礎解析	矢野健太郎著	科学新興社
微積分のはなし	大村平著	日科技連出版社
理系のための微分積分	竹之内脩ほか著	培風館
関数のはなし	大村平著	日科技連出版社
パソコンによる多変量グラフ解析入門	河口至商ほか著	森北出版
多変量解析のはなし	大村平著	日科技連出版社
確率のはなし	大村平著	〃
統計のはなし	大村平著	〃
理系のための確率統計	竹之内脩ほか著	培風館
数値計算の方法とＢＡＳＩＣプログラム	林英輔著	森北出版
フォートランによる実用数値解析	藪下信著	〃
解明新物理	小口高著	文英堂
力学は宇宙船に乗って	広井禎著	コロナ社
光の探検	福島肇著	〃
超電導	太刀川恭治ほか著	読売新聞社
放射線と私たち	笠耐著	コロナ社
化学と私	福井謙一著	科学同人
解明新化学	稲本直樹著	文英堂
マイコンが解く天体の謎	中野主一著	誠文堂新光社
宇宙のドラマ		教育社
天体観測		〃
地球水と緑の大地		〃
生きている地球		〃
風のはなし	伊藤学ほか編	技報堂出版
分子を操る技術	千葉玄弥編	読売新聞社

工学

書名	著者	出版社
工学のための応用数値計算法入門	篠崎寿夫ほか編	コロナ社
エネルギープロジェクト	笠耐ほか著	〃
ロボットの未来学	三浦宏文著	読売新聞社
工業英検試験問題集　89年度		日本工業英語協会
工業英語へのアプローチ		〃
工業英語へのワンステップ		〃

工業英語ハンドブック　　日本工業英語協会
技術士補試験　オーム社編　　オーム社
土木技術者のための小論文技術レポートの書き方　京牟礼和夫著
理工図書
ＮＡＳＡ宇宙開発のパイオニア　　教育社
電気の常識　北大路剛著　　オーム社
これから始める人の電気学入門講座　高橋昭二著　電波新聞社
絵とき電気理論　福田務著　　オーム社
実用電気計測学　三枝武男著　　HBJ出版局
太陽電池の時代　黒川浩助著　　読売新聞社
絵とき通信　伊落　ほか著　　オーム社
ＩＳＤＮ　池田佳和著　　〃
衛星通信入門　野坂邦史著　　〃
衛星放送とハイビジョン　塩野充著　　〃
入門ＶＴＲ　横川幸太郎著　　東京電機大学出版局
やさしいデジタル技術講座　原田益水著　　電波新聞社
わかるＰＬＬの応用テクニック　高松重治著　日本放送出版協会
はじめてのオシロスコープ　吉田武著　　〃
実用ＩＣ回路設計の手引　原和裕著　　オーム社
新しい電子の眼－ＣＣＤ　野口靖夫著　　読売新聞社
田原総一朗のパソコンウォーズ　　日本ソフトバンク出版
化学工学を拓いた人達　化学工学協会編　　丸善
化学工学プログラミング演習　化学工学協会編　　培風館
統計熱力学による平衡物性推算の基礎　斎藤正三郎著　　〃
化学工学便覧　化学工学協会編　　丸善

芸術

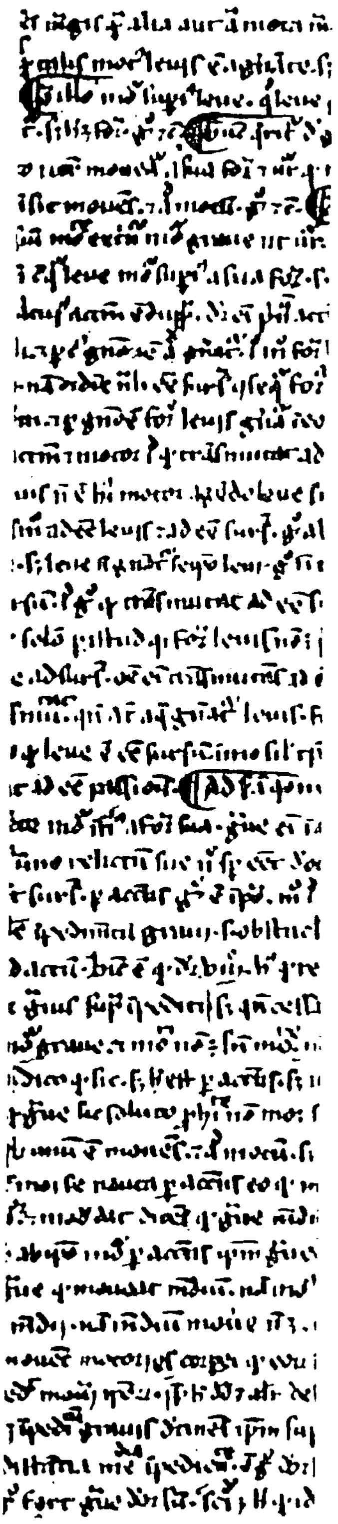
日本学術資料総目録　　Almic
講座二十世紀の芸術　4　技術と芸術　　岩波書店
〃　5　言語の冒険　　〃
ボブアンダーソンのストレッチング　　ブックハウスエイチディ
ドミンゲス博士のスポーツ医学百科　　〃
ファンクショナルテーピング　川野哲英著　　〃
感動の記録　五輪全史　　福島民友新聞社
トータルボディトレーニング　ドミンゲスほか著
ブックハウスエイチディ

語学

漢字講座　4　漢字と仮名　　明治書院
英語の総合的研究　赤尾好夫編　　旺文社
英文法正解　木村明著　　培風館
高校講座英語構文　宮川幸久著　　旺文社
全解英語構文　山口俊治著　　語学春秋社

文学

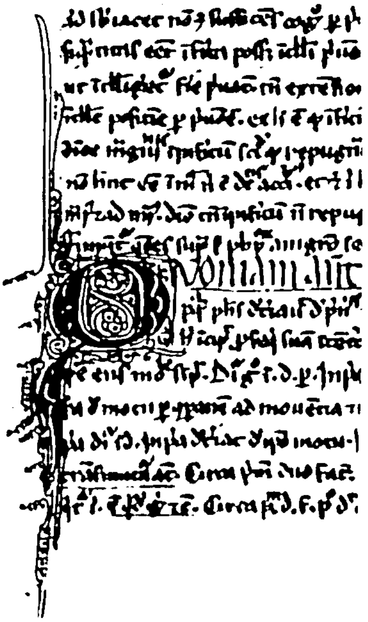
噺本大系　11　20　　東京堂出版
昭和文学全集　4　柳田国男ほか　　小学館
〃　27　福田恒存ほか　　〃
野上弥生子全集　14　日記　　岩波書店
アルジャーノンに花束を　Keyes著　　早川書房



図書館利用者統計

（1） 過去３か年学生利用状況

利用冊数 分類 ／ 年度	実数			%		
	S.61	S.62	S.63	S.61	S.62	S.63
総記	133	160	173	2	3	3
哲学	155	225	161	2	4	3
歴史・地理	157	120	115	2	2	2
社会科学	62	82	129	1	1	2
自然科学	1,551	1,166	1342	25	21	24
工学・技術	3,887	3,346	3163	62	61	58
産業	12	2	10	-	-	0.5
芸術・体育	37	45	27	1	1	0.5
語学	119	119	58	2	2	1
文学	198	258	312	3	3	6
合計	6,311	5,523	5,490	100	100	100



（2） 昭和６３年度利用状況

年間開館日数	２３６ 日
年間総入館者	３７，６６０ 人
一日平均入館者	１６０ 人
一日平均帯出人員	１７ 人
〃 冊数	２３ 人
帯出冊数／学生数	６．８１冊

（３）　昭和６３年度利用人員（学科・学年別）

学年 / 学科	1	2	3	4	5	計	%
機械工学	35	381	419	223	185	1243	31
電気工学	111	89	403	220	390	1213	30
工業化学	84	137	494	247	177	1139	27
土木工学	97	32	119	86	141	475	12
合　計	327	639	1435	776	893	4070	
%	8	16	35	19	22		100

（４）　昭和６３年度　学年別・分類別利用冊数

学年 / 分類	1		2		3		4		5		合計	%
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%		
総　　記	40	9	30	3	42	2	19	2	42	3	173	3
哲　　学	122	28	5	1	17	1	9	1	8	0.5	161	3
歴史・地理	46	10	33	3	12	1	4	0.5	20	2	115	2
社会科学	48	10	1	0.5	23	1	7	1	50	4	129	2
自然科学	53	12	204	24	636	33	266	25	183	14	1342	24
工学技術	51	12	501	60	1069	56	652	62	890	69	3163	58
産　　業	1	1	1	0.5			2	0.5	6	0.5	10	0.5
芸術・体育	1	1	9	1.5	12	1	2	0.5	3	0.5	27	0.5
語　　学	7	2	1	0.5	11	1	20	2	19	1.5	58	1
文　　学	63	15	51	6	72	4	57	5.5	69	5	312	6
合　　計	432	100	836	100	1894	100	1038	100	1290	100	5490	100

（５）　分類別総蔵書統計表（平成元年度３月末日現在）

総蔵書	区分		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学
	図書数	和漢書	2,912	2,741	3,264	3,402	11,120	21,865
		洋書	261	56	32	129	2,944	1,661
	計		3,173	2,797	3,296	3,531	14,064	23,526

総蔵書	区分		産業	芸術	語学	文学	末分類	合計
	図書数	和漢書	463	1,921	2,853	5,773	0	56,314
		洋書	8	39	580	557	0	6,267
	計		471	1,960	3,433	6,330	0	62,581

読書のコツ

ある本はなめ味わうように、ある本は丸呑みするように、ある僅かな本はよくかみ砕き、消化するように読みなさい。言い換えれば、ある本はところどころ読めばよい。ある本は、読むといっても、綿密に読む必要はない。ごく僅かな本だけが注意深く子細に全部を読み通す必要がある。ある種の本などは、誰かに読んでもらい、その抜粋で間に合わせてもよい。

フランシス　ベーコン

★★★　夏休み特別貸出　★★★

７月１３日（木）までに館外帯出した図書の返却日は８月３１日（木）です。

夏季休業中の開館日

８月１日～８月２６日

（ただし、８月１２日～１６日、および土曜日の午後、日曜日を除く）

平成元年度図書委員

図書館長	土居威男	（土木工学科）
副館長	＊小林伸吉	（一般教科）

委員	佐藤憲男	（機械工学科）	春日　健	（電気工学科）
	大澤英一	（工業化学科）	根岸嘉和	（土木工学科）

1M	＊鈴木啓一郎	1E	藤井慎一	1C	栗田英之	1土	寺岡大二
2M	馬上征士	2E	小澤伸弘	2C	加藤晃一	2土	＊石川淳一
3M	＊滝　宗大	3E	＊遠藤貴子	3C	黒山浩之	3土	川田　睦
4M	鈴木三幸	4E	斉藤靖弘	4C	＊門脇秀貴	4土	新妻正明
5M	三津間浩樹	5E	＊筧　真一郎	5C	柳沼賢一	5D	＊八代文子

（＊印　ビブリア編集委員）

編集後記

なんとか夏休み前にビブリア66号を作り上げることができた。これもコンピューターのおかげである。図書館の改修計画もしだいに具体性を帯びてきて、図書委員も何かと気ぜわしい毎日を送っている。次号からは、この計画の概要を連載でお知らせしたいと考えている。

また、去る7月3日、本校図書館も「福島県内大学図書館協議会」への加入が認められ、10月からは各大学図書館との蔵書の貸し借りが可能となる。これは、取り寄せるために多少の時間がかかるものの、蔵書が一挙に10倍以上になることを意味する。夏休み中に実務者レベルの話合いが数回持たれた上で、具体的な手続きなどが決定される。

このような状況の中で、ビブリアの発行はどうしても不規則になりがちだが、投稿はいつでも歓迎します。

閲覧室の投書箱へ！